（別紙様式）

令和６年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

寒川町立寒川中学校

研究テーマ：自分大好き　友だち大好き　学校大好き　生きるって素晴らしい！
～生徒の自己肯定感を高める形成的評価の手立て～

１　実践の目的

本校では、昨年度まで「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価についての研究を進めてきた。昨年度３月に実施した職員アンケートにおいて、本校生徒の実態をふまえて取り組むべきテーマとして「自己肯定感」が挙げられた。自己肯定感とは、否定的な部分も含めたありのままの自分を受容しようとする感覚であり、学校生活における様々な体験を通じて生徒の自己肯定感は高められたり低められたりする。どのような場面において生徒の自己肯定感が高められるのかを明らかにすることは、教育活動の充実化において意義深いものである。

教科授業における生徒の自己肯定感を高める手立てとして、「形成的評価」に注目する。形成的評価とは、学習の過程において実施する評価であり、生徒が自らの学習状況を把握して学習改善につなげる目的で行われるものである。各教科の授業において形成的評価の視点を授業づくりに取り入れ、生徒の自己肯定感がどのように変容するのかについて検証することを今年度の研究の柱とした。

２　実践の内容

（１）生徒アンケートについて

自己肯定感に関する生徒アンケートを４月、９月、１月の合計３回実施した。アンケートの内容は、自己肯定感について「自己受容」、「対人評価」、「自己実現的態度」、「充実感」の４つの側面について測定するものである。年間で３回実施することにより、生徒の自己肯定感の変容について分析することができた。

（２）校内研究講演会
「生徒の自己肯定感の理解と支援」

４月に実施した自己肯定感に関する生徒アンケートの集計結果について、渡部先生より評価を頂いた。自己肯定感が高まるためには「あるがまま」の自分が批判や評価をされることなく理解され他者に認められる経験を蓄積することが重要である。そのための手立てとして、「ポジティブな行動支援（PBS）」が有効であり、目指す生徒像に向かって生徒を褒めたり認めたり、環境を設定したりする取り組みが重要となる。教科授業においては自己を振り返る機会の設定や教師による肯定的なフィードバック等が有効であり、それらを授業づくりに取り入れていくことで自己肯定感の高まりが期待されることを再確認した。

（３）校内研究全体会
「研究授業、研究協議、指導・講評」

形成的評価の視点をもとに、第２学年の数学科、第３学年の保健体育科の授業を行った。数学科の授業では、既習の内容を利用しながら説明を組み立てる活動を行った。教員が考えのヒントを段階的に示すことにより、生徒が少しずつ考えを構築できるよ

うになり、生徒自らが説明を組み立てることができたという達成感を得ることのできる授業展開となった。保健体育科の授業では、バレーボールにおいてグループ内でのパスをつなげるために試行錯誤を重ねる活動を行った。実技が苦手な生徒でも取り組むことができるように教具の工夫や肯定的な言葉かけの雰囲気づくりを行い、グループで協働しながらパスをつなげる喜びを感じることのできる授業展開となった。

３　実践の成果と課題

（１）生徒アンケートについて

年度で３回実施した生徒アンケートでは、学校全体の傾向として、「対人評価」の得点が高く、「自己実現的態度」の得点が低いという結果となった。このことから、友人や先生などの他者に対する安心感は高いが、より良い自分づくりをするために努力をしているという意識が比較的低いことが明らかとなった。設問別では、「自分の良い所も悪い所もありのままに認めている」という質問の得点上昇率が高く、今年度の教育活動を通じて、生徒の自己肯定感が高められたことが明らかとなった。

また、全体だけではなく生徒個人の結果についても分析を行い、その分析をもとに、学級経営などに活用することもできた。生徒アンケートの結果と、生徒の実態を参照しながら生徒の変容について客観的に分析することができるようになったため、次年度以降も継続的に生徒アンケートに取り組んでいきたい。

（２）形成的評価の手立てについて

８月の講演会や１１月の研究会を通じて、生徒の自己肯定感を高めるための形成的評価の手立てについて研究を進めた。８月の講演会では、自己肯定感を高めるための肯定的なフィードバックの手法について学び、１１ 月の研究会では形成的評価の視点をもとに数学科、保健体育科の授業提案を行った。今年度の研究の１番の成果として、教職員が「形成的評価」という視点をもとに授業計画を行うことができるようになったことが挙げられる。昨年度までは、「評価」では評定として用いる総括的な評価としての認識が強く、指導に活かす評価としての形成的評価の視点が不足していた。総括的な評価だけでなく、生徒の状況を把握し、改善につなげるフィードバックとして形成的評価を取り入れることにより、生徒の学習の質を高め、自己肯定感が高められることが期待されることが今年度の研究を通じて示唆された。

４　今後の展開

今年度は、教科授業における「形成的評価」の取り組みを充実化させ、生徒の自己肯定感を高めることを目的として研究に取り組んできた。生徒アンケートを活用しながら、形成的評価の取り組みが生徒の自己肯定感にどのような影響を与えるのかについて検証できたことが成果である。次年度以降の課題として、教科授業以外に視点を広げ、生徒の自己肯定感を高める手立てや視点について蓄積を重ねていき、本校の学校教育目標に相応しい生徒の育成を目指していきたい。